

## 株式会社 百五銀行

### インフォメーションミーティング（2024 年度中間決算説明会）における主な質疑応答

#### 【質問①】

**Q. 預金について、今上期は大きく伸びていた。預金が減っている地域金融機関も多いなかで、愛知県の法人預金が伸びており、個人や東京・大阪での法人預金も伸びている。それぞれどのような施策をとったのか教えてほしい。**

**A.** 預金関係については、比較的伸びていると感じている。当行は過去から預金の伸びが高く、預金に関しては自信を持っているが、足元の環境では預金よりも預り資産に傾注していた。金利上昇局面において、あらためて預金に注力する方針で営業は展開している。愛知県の法人預金が伸びているが、これまでは愛知県の法人預金獲得に注力できなかった反省も含め、積極的に声掛けを行った。また、個人預金については、金利を上乗せして獲得する戦略ではなく、今まであまりアプローチできなかった先にも、スマホバンキングを通じて粘着性のある預金を積み上げていく方針である。住宅ローン利用者の給振口座指定により、域外の個人預金は増えている。これを継続していきたい。

#### 【質問②】

**Q. 住宅ローンについて、事務手数料の減少が少し大きかったと思う。これは従来通り定額型が多かったのか。また定率型のほうはネット銀行にパイを奪われているといったトーンだったが、住宅ローン全般の考え方について教えてほしい。**

**A.** 住宅ローンの手数料については定額型が増えている。定率型については、他行競合が厳しくなっており、これまで新規の貸出金利は上がってきていなかった。手数料もあまり上がらないのが現状となっており、獲得手数料は下がっている。住宅ローンの貸出金利については、当行は変動金利型が多いため、基準金利が上がることにより利息収入が増加する。ただし、金利上昇の影響が既存のストック分に反映されるのは来年 1 月以降になるため、すぐに影響は出てこない。

#### 【質問③】

**Q. 資本政策について。住宅ローンの貸出が積み上がっているなかで、今後の収益性の改善が見込まれることを考えると、バーゼルⅢの完全適用で自己資本比率が将来的には下がる可能性があるとはいえ、自己資本比率は上がっていく方向性だと思う。そのようななかで、機動的なパイバックを掲げているが、これは年度末の自己資本比率を考えながら、ある程度機動的に実施していくのか。**

**A.** 自己資本比率についてはバーゼルⅢを早期適用しているので 12%程度だが、完全適用されると 10%程度には落ちる。10%はひとつのまともな水準かと考えているので、今後もコントロールしていきたい。

【質問④】

**Q. バーゼルⅢが完全適用される場合、資本フロアに触れてしまうと、何か大きく動く要因はあるか。**

**A.** 大きく動くというよりも、軽減措置になっているものがなくなる。これは他行も含めて同様である。資本フロアの部分に触れてくるため、アセットを見直す形になる。

【質問⑤】

**Q. 住宅ローンに対しての金利上昇の影響について。短期プライムレートが上がれば今の変動型住宅ローンはその分金利が上がるのか。それとも住宅ローンについては様々な優遇があるので、基準金利は上がっても、実際の利ざや部分は競争のなかで小さくなるのか。また、住宅ローンの目標修正により、今後は中小企業向け貸出に経営資源を移していこうという戦略になるのか。**

**A.** 短期プライムレートが 0.15% 上昇した場合は、基準金利も 0.15% 上昇するため、既存住宅ローンのストック部分については金利が上昇する。新規分についても、愛知県は競争が非常に厳しくなっているが、貸出金利を 0.15% 上げる対応をしている。競合の動きによっては見直す時もあるが、基本的には実行金利を上げていく方針。実際に、新規住宅ローンの貸出金利を見ると、今年 9 月、10 月と 0.15% 程度上がっている。ただし、金利上昇に伴い、獲得額の伸長がこれまでのように見込まれないため、住宅ローンの獲得目標を下げている。下げた分の経営資源をどこにもっていくかについては、今の状況下では、国債等の金利も上がってきているため、有価証券投資や中小企業貸出について今まで以上に注力していくよう、営業体制自体を見直すことも検討に入れている。

【質問⑥】

**Q. ディスクロージャー誌を見ると、人材戦略のタレントマネジメントシステムを導入したとのことだが、どのようなシステムなのか、導入の目的、活用の方針などについて教えてほしい。**

**A.** 人事制度については、過去からの経歴と定性情報をベースとした人事システムであったが、それだけでは不足しており、属人的な部分、どういったことを考えて、次にどのような部門で活躍したいかなどの情報活用が必要となってきた。タレントマネジメントシステムは、総合的な評価を本部サイド、人事サイドでも見られるような形とし、本人の希望も聞きながら、得意な分野で力を発揮できるような配属をすることを目的として導入した。基本は上司と部下の面談だが、面談結果をシステムに入力するなど、これから活用を拡大していきたい。

【質問⑦】

**Q. 法人貸出金の資金需要の中身、継続性について教えてほしい。**

**A.** 中小企業の資金需要については、コロナ融資が一服しているので、落ち着いている状況。ただシンクタンクの百五総合研究所の企業調査では、24 年下期に設備投資すると回答した企業が 52.7% という結果になっているため、その資金需要は見込めると考えている。また、物価高の影響によって資金繰り支援などの必要性が出てくる取引先もあるため、法人貸出については底堅い動きが継続すると考えている。

以上